

《報告》

「歴史的典籍オープンデータワークショップ ～切ったり貼ったり、古典籍からなにを取り出そう？～」

2017年12月8日（金）に、「歴史的典籍オープンデータワークショップ～切ったり貼ったり、古典籍からなにを取り出そう？～」を、大阪市梅田の大阪市立大学文化交流センターにおいて開催しました。当日は39名（スタッフ含む）もの参加者があり、6グループに分かれて、それぞれキュレーションをテーマに古典籍の活用方法に関する自由なディスカッションを行いました。

※「キュレーション」：情報などを特定のテーマに沿って集めること。



日 時	2017年12月8日(金)15:15～18:00
場 所	大阪市立大学文化交流センター 大セミナー室・小セミナー室
参加者数	39人
主 催	人間文化研究機構 国文学研究資料館
共 催	人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館メタ資料学研究センター 人間文化研究機構 国立国語研究所 情報・システム研究機構 国立情報学研究所 情報・システム研究機構 データサイエンス共同利用基盤施設 国立国会図書館 一般財団法人人文情報学研究所 情報処理学会 人文科学とコンピュータ研究会

【関連サイト】

「新日本古典籍総合データベース」(<https://kotenseki.nijl.ac.jp/>)

「日本古典籍キュレーション (CODH)」(<http://codh.rois.ac.jp/pmjt/curation/>)

「オープンデータセット (国文研)」(http://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/data_set_list.html)

「日本古典籍データセット」(<http://codh.rois.ac.jp/pmjt/>)

「日本古典籍字形データセット」(<http://codh.rois.ac.jp/char-shape/>)

「江戸料理レシピデータセット」(<http://codh.rois.ac.jp/edo-cooking/>)

「じんもんこん 2017」サイト(<http://jinmoncom.jp/sympo2017/>)

チュートリアル（予備講習）

今回のオープンデータワークショップは、「キュレーションサイトの展開例」というあまり耳慣れない事柄をテーマとしたこともあり、より多くの人にキュレーションについて知っていただくためワークショップの前に 30 分の予備講習を設けました。チューターは、人文学オープンデータ共同利用センター（CODH）の北本センター長（IIIF Curation Viewer の開発と利用）と、人文情報学研究所の永崎先生（Omeka IIIF Toolkit + Neatline）にお願いしました。



第 1 部「歴史的典籍オープンデータを知る」

第 1 部では、当館古典籍共同研究事業センターの松田特任助教の司会のもと、山本和明副センター長の開会挨拶、同センター岡田一祐特任助教による本ワークショップの概要説明、国立国会図書館の安松沙保氏による国立国会図書館で利用可能なオープンデータ「国立国会図書館デジタルコレクション」の紹介、岡田特任助教による「新日本古典籍総合データベース」の紹介、CODH の鈴木親彦特任研究員から「歴史的典籍を使ったキュレーションの一例として日本古典籍キュレーション by IIIF Curation Viewer」の説明がありました。



歴史的典籍アイデアソン

第2部は、国立情報学研究所の大向一輝准教授をオーガナイザーに迎え、第1部の内容を踏まえつつ「歴史的典籍アイデアソン」を実施しました。6つのグループに分かれて自由にグループディスカッションを行ってもらいました。以下に各グループから提案されたアイデアをご報告いたします。



グループ別アイデア取りまとめ

提案1 【人物キュレーションデータベース】

2020年の東京オリンピック開催を視野に入れ、人物キュレーションをデータベース化し、海外からの外国人観光客をターゲットに、日本のよさを知ってもらい日本文化に親しんでもらうことを目的としました（題して「KOTENSEKI de O・MO・TE・NA・SHI」、「Japan LOVE 今も昔も愛してJapan」）。

具体的には、時代、地域、トレンド等その他各種テーマに応じた人物図版について、google 画像サーチで得られた人物像を「今」とし、人物キュレーションを「昔」とします（古典籍に描かれている人物像をキュレーションする）。双方に対して同時に検索を行い、検索結果の画像同士を比較したり（例；走っている人の像＝今：聖火ランナー／昔：そのポーズに類似した人物画像）、蓄積した人物像の衣服を着せ替えて遊ぶ等々。また、作成したものをSNSで発信できるようなアプリを開発したりすることで、古典籍や日本文化をより身近に感じてもらえるようになるのではないかと考えました。



提案2 【株式会社 FUDE（ふで）】

キュレーションをビジネスに活かすことを考え、株式会社 FUDE を立ち上げます。「日用品から砂漠まで、なんでもペイント」をテーマに国際展開も視野に入れ、古典籍から得た素材を場所や対象を問わず、プリント又は投影して活用します。

たとえば、キュレーション画像をプリントしたグッズ製作・販売や、キュレーション画像によるボディペイント、砂漠へのプロジェクションマッピングなどの国内外に向けた事業を展開してはどうでしょうか。



提案3 【教育用キュレーションサイト】

教育の現場で活用できるようなキュレーションのテーマを提案します（例：国語：古典教材、歌枕の風景／理科：本草や博物資料／その他：昔のファッション、各地の特産品、食）。その他、生徒自身がテーマを選んでキュレーションすることも考えてもいいと思います。

キュレーションされたものを教育現場で使用する他に、先生や生徒がキュレーションすることも考え、キュレーションを支援する古典籍のリスト等も用意します。

メリットとして、生徒自身がキュレーションを実践することで、古典と親しむ、画像データの利用を通じて情報リテラシー教育を行う、あるいは発表の場を設けるなどすれば、アクティブ・ラーニングによるコミュニケーション力の向上などに効果があるのではないのでしょうか。



提案4 【SNS 向けの素材提供と、音楽や感情に絡めたデータ生成】

まず、LINE スタンプ、twitter のアイコン用画像、各種アバター用画像などの SNS 向け素材を提供します。キュレーションを使った 4 コマ漫画や大喜利テーマの自動生成というのも素材として面白いのではないのでしょうか。

つぎに、現代にまで継承されづらい「昔の音」をキュレーションし、自動作曲のような形で触れられるようにします。さらに、「昔の音」に感情分析などを施して、「感情」を設定するとその気分に合った曲を自動生成するようなアプリを作成し、ストーリーに応じた音楽をつくります。

機械処理で可能なところは、機械に自動生成してもらい、微かな感情を表現するなど、「人」でないと出来ない領域について、人が楽しみとして補正して行うことができるアプリ等を作成します。



提案5 【今昔（こんじゃく）なりきれば】

提示されたキュレーション画像を真似して楽しむサイトを立ち上げます。完全なコスプレで動作や服飾を再現したものや、あるいは、モチーフだけ、あるいは現代風アレンジをして真似たものを写真に撮って投稿したり、与えられた複数の古典籍画像から勝手にストーリーを考えて、なりきった動画を投稿してもらったりします。

外国の方が和装をするなど日本文化に触れる機会が増えてきていますが、物やシーン、服装、服装の柄等を真似することで、昔の日本の人の姿を追体験してもらいます。また、そうした投稿による写真や動画を観光用 PV 等まで発展させることで、日本文化に関心のある外国人の目を引くことができるのではないかと考えます



提案6 【用途別キュレーションセット／古典籍ミュージアムショップ／画像認証への援用】

3点提案します。例えば、使い方の分からない民具の名前を入力すると、古典籍からその民具に関連した画像が一覧で表示される「用途別キュレーションセット」があれば、その画像から民具の用法などが分かるかもしれません。用途別にセットされることで、パワーポイント等用の画像素材やペットなど身近な事象と結びつけて楽しむこともできるでしょう。

古典籍の画像を3D化してフィギュアを作成し、国文研で研究者が解説する古典籍ミュージアムショップを立ち上げることを考えました。古典籍の画像をミュージアムグッズに使用してみてはどうでしょうか（大判焼きの焼き入れ等）。

また、人文学研究者専用の画像認証として、くずし字を利用することで、より難度をあげることができるのではないのでしょうか（レポート提出画面などに使用）。



今回のワークショップで提案されたアイデアは、まだ机上のものでしかありませんが、提案されたアイデアに触発されて、新しい試みの実施や、古典籍データの利活用が一層進めばと考えております。

当館では、これからも古典籍に関する様々なイベントを開催していきますので、今後とも国文研のイベントに是非ご注目ください。

